



公益財団法人 School Aid Japan バングラデシュ通信 2015年1月号 No. 25



2015年度 新学期スタート

Narayankul Dream Model High School 「(以下、NDMHS)」は新入生 120 名を迎え、新年度がスタートしました。やる気満々の新入生は、朝のアセンブリでも元気いっぱいです。何もかもが新しい環境ですが、2月には早速、体育祭を催します。



アセンブリ時の新入生



体育祭に向けた練習

まだ慣れない生徒たちですが、授業のスタートと同時に上級生のリードで体育祭の練習が始まりました。NDMHS の体育祭は毎年、学年・クラスの枠を取り払い、チームが結成されるため、新入生たちは入学後すぐに他学年・他クラスに跨って友達を作ります。そんなワクワクが止まらないこの新学期。早速生徒に話を聞いてみました。

新入生インタビュー！

Q.NDMHS のどこがお気に入り？

A.綺麗でのびのびと勉強できる環境です。みんなでスポーツがたくさんできるチャンスがあるのも素敵です。

Q.将来の夢は？

A.銀行員になることです。

Q.今がんばっていることは？

A.英語のスピーキングです。中学レベルの英語は難しいですが、将来必ず使うので、身につけたいです。

Q.現在の目標は？

A.学期末の総合成績で一番をとり、学校行事でも活躍して、校長先生にはめて貰うことです！



Class6-B Faria Rahman Mim さん

コラム：教育支援のジレンマ

NDMHS には、毎年 120 名の生徒が入学します。

ターゲットとしている生徒は「家庭の経済状況がよくななくても、やる気のある生徒たち」です。裕福な家庭の子どもは、進学校にも塾にも通うことができるため、このターゲットに優先順位を置いております。



今年も 120 名の生徒たちが入学しましたが、一方で入学できなかった生徒も大勢います。

3 回目となる今年度の選考には学校近隣だけでなく、少し離れた周辺の地域から、合わせて約 350 名の応募がありました。

選考の段階で直面した問題は、2 つでした。

1 つ目は、ターゲット条件の一つである、「生徒の家庭の経

済状況」の判断です。

バングラデシュでは、先進国のように行政団体にしっかり確定申告をしている方々の割合が高くありません。世帯収入の判断は、農村地帯では特に難しい問題です。

その対策として、現在の 120 名の枠の大部分を、提携している教育 NGO「Basic Development Partners (以下 BDP)」の運営する、小学校に設けることで対応しております。

それは BDP の小学生の大半が、経済状況が豊かでない家庭の子どもたちだからです。

しかしそれでも、2 つ目の問題として、裕福な家庭の子どもたちが、そうでない生徒たちのための席を侵食してしまうことが起きてしまっています。

NDMHS の教員と教育システムのクオリティが高く、無料でその教育が受けられるため、うわさが県内だけでなく他県にまで広まっております。それを聞きつけた、裕福な家庭の親は、生徒を通わせようと、情報を取りにきます。

ところが、BDP の小学校以外からの枠が少ないと知ると、今度は BDP の小学校に入れようとしてきております。そこには、無料でしか教育を受けられない生徒が多数通っており、裕福な家庭の子供が入れば、その分裕福でない子たちにの席が減ってしまいます。

このターゲティングを保持し、実現させるため、上記 2 点の解決方法を考えていかななくてはなりません。